



佐那河内村上嵯峨地区

先よみワークショップ報告書



2022 年 11 月

合同会社 暮らしと自治と創造

はじめに	1
第1回ワークショップのまとめ	3
第2回ワークショップのまとめ	19
第3回ワークショップのまとめ	27

目次

はじめに

地域づくり検討の趣旨

佐那河内村は人口減少や少子高齢化の深刻化は止まらず、特に嵯峨地域では少子化にともなう将来的な地域の不安感が広がっている。一方で、行政においても行政事務の複雑化や財政の厳しさもあり、地域が負担しきれないような取り組みを行政が代行するというのも難しい。

そこで、地域の現状を地域住民と十分に共有し、地域の将来について共通認識を持ちながら身の丈にあった活動を検討する必要があるため、上嵯峨地区では「先よみワークショップ」に取り組み、住民主体の活動を生み出すための検討を開始した。

地域づくりの検討

2022年度、上嵯峨地区の5常会では、地域づくりの将来シミュレーションやシミュレーションに基づいた課題の整理、課題に対する対応策の検討などを進め、地域課題の解決を目標に置きつつも、地域で主体的に取り組むことができる活動を検討した。

先よみワークショップ

「先よみワークショップ」とは、簡易な集落点検をベースとして地域の将来状況を示し、そのうえで、将来的な課題を予測した上で、将来課題への対応策を検討する連続ワークショップである。また、地域に住まなくとも地域に通っている親族など、実質的な集落の担い手の位置づけも行った。

上嵯峨地区では事前説明会のあと、集落点検から3週間毎に開催する計3回の住民ワークショップを通じて、地域で可能な取り組みを検討してきた。

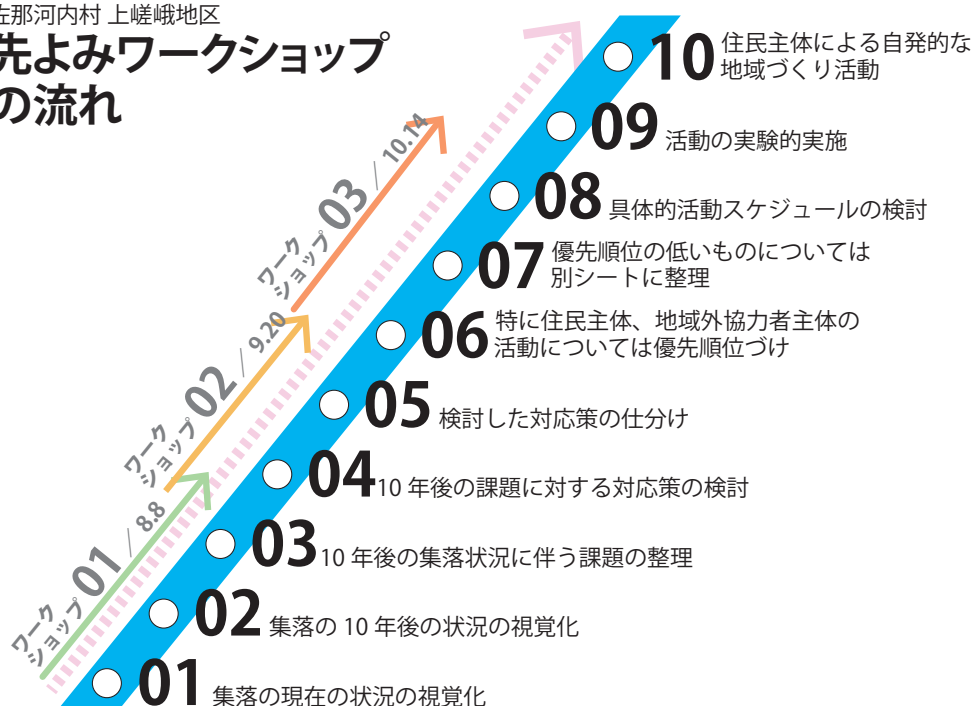
※途中、新型コロナウイルス感染症感染拡大によりスケジュールの変更を行っている。

ワークショップのスケジュール

2022年8月8日	趣旨説明、第1回 集落点検ワークショップ
2022年9月20日	第2回 地域課題への対応策の検討ワークショップ
2022年10月14日	第3回 活動の優先順位づけワークショップ
2022年11月8日	ワークショップ報告会

佐那河内村 上嵯峨地区

先よみワークショップの流れ



ワークショップの進め方

10年後の地域状況の「見える化」から、この10年の取り組みを検討する

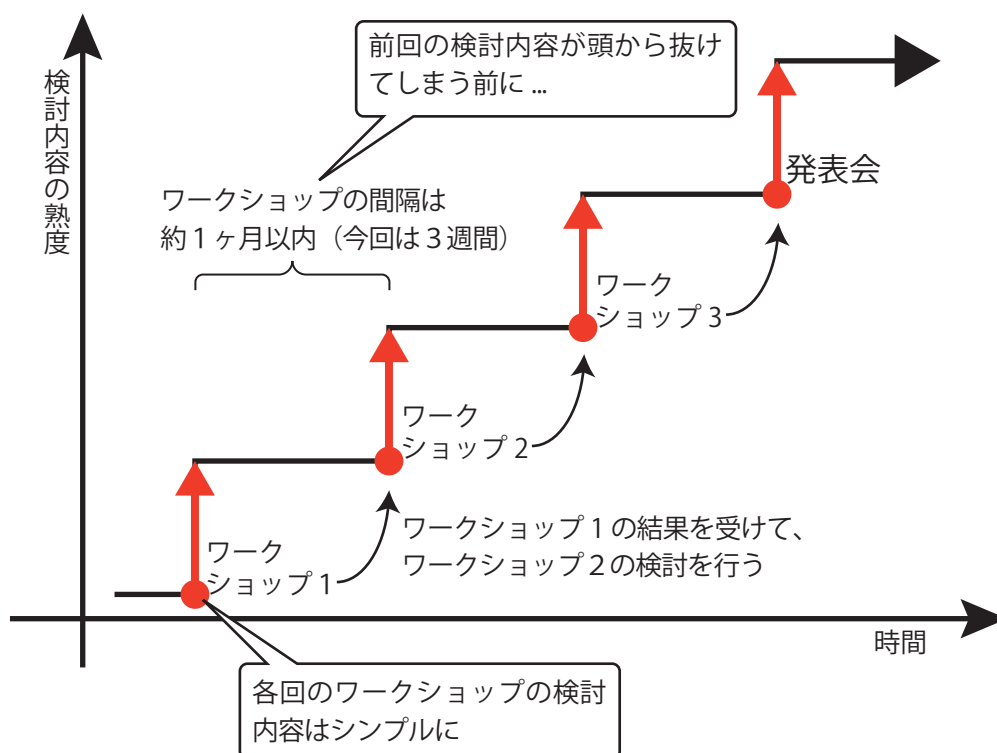
巷には様々な「まちづくり」や「地方創生」の取り組みが行われているが、住民目線とのズレがあることから、なかなか地域が一体となった取り組みとはならず、一部の前向きな住民の取り組みにとどまっている現状がある。これは一般の地域住民が漠然と抱いている地域に対する不安感と、実際に行われている「まちづくり」や「地域づくり」と称される取り組みとの関係が見えにくくなっているためと考えられる。

そこで本連続ワークショップでは、住民目線から最も身近な地域の状況を現在と10年後について「見える化」し、10年後の課題に対してこれから10年かけて取り組み、課題化することを防ぐことを目的としている。これにより、昨今課題となりつつあるような、上滑りした地方創生ではなく、地に足ついた“腑に落ちる”地域づくり活動を住民自らが立案していくことをめざす。

3週間間隔のワークショップ

多くのワークショップを始めとした住民検討会は取りまとめや準備の関係で、数ヶ月に1度、というペースで実施されるのが一般的であるが、本連続ワークショップは取りまとめ手法までをモデル化することで、住民が前回の検討内容が強く印象に残っている間に次回の検討会を開催することをめざし、毎回のワークショップの間隔を3週間間隔として進めてきた。

そのため、上嵯峨地区では第1回から第3回と回を重ねるうちに参加者が増加していくという結果となった。



先よみワークショップ 01 まとめ

■ワークショップの目的

地区の現在、未来を“見える化”する。高齢化の進む地区の現状を地図上に示し、そこから想定される課題を具体的にイメージする。現在と10年後の状況を比較することで、今後厳しくなる集落状況を理解し、今後のワークショップで「何ができるか？」を検討する際の基礎情報とする。

■実施内容

- ・現在および10年後について、地域に暮らす人々の年齢構成を地図上に示す。
- ・10年が経過し、高齢化の進んだ地域において、現在はさほど問題ではないものの、10年後に深刻化することが想定される課題や問題を洗い出す。

■作業内容

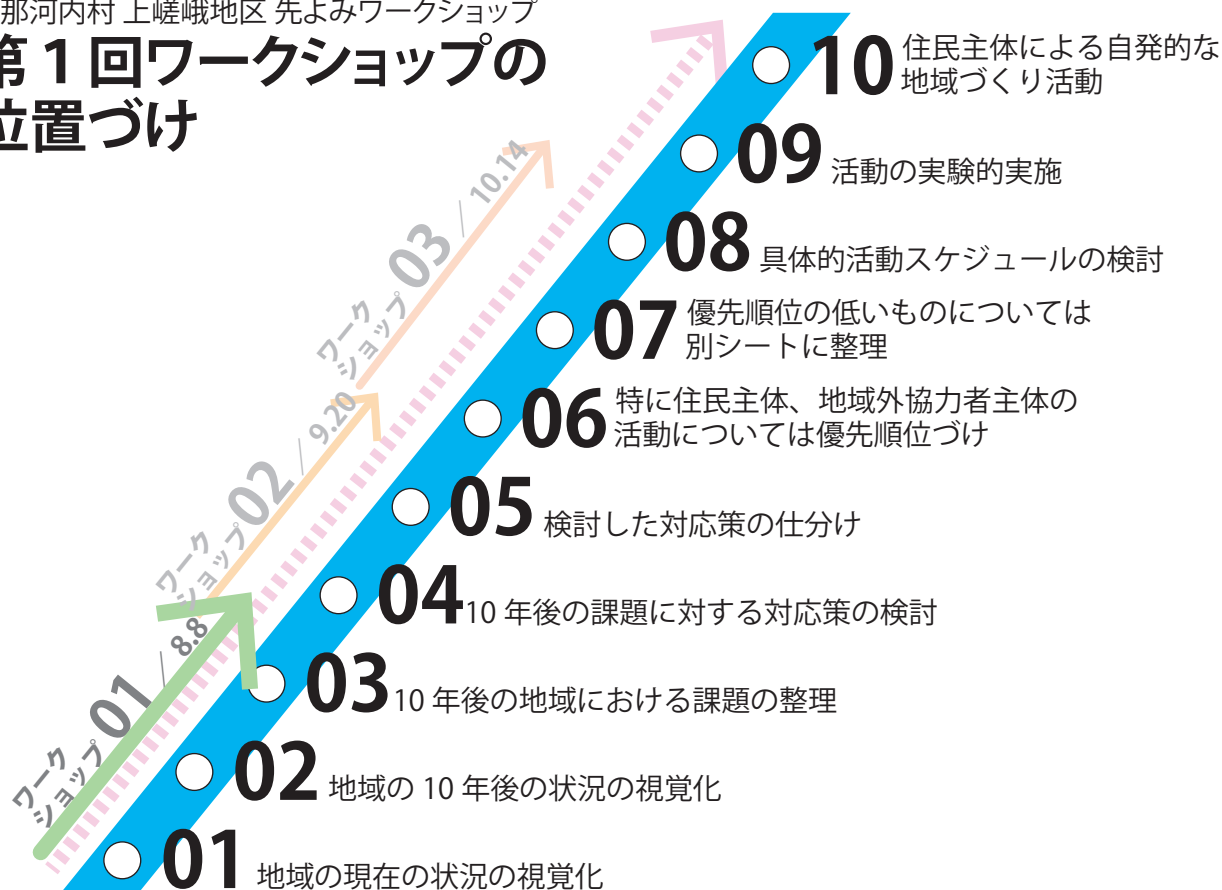
- ・現在の集落の状況を①75歳以上、②18-74歳の男女、③18歳未満、④定期的に訪れる親族など、を地図上にシールを貼ることで“現在の地域の担い手の状況”を見える化し、現在地域が抱えている課題認識を記述する。
- ・同様に10年が経過した際の担い手の状況を記述し、10年後の課題をイメージすることで、今後10年間で地域で取り組む必要のある課題を共有する。

※高齢者の死亡はなし、という前提条件



佐那河内村 上嵯峨地区 先よみワークショップ

第1回ワークショップの位置づけ



■集落状況の変化からわかること

- ・宮上常会は若年層が多いことからこの10年での大きな状況変化は見られないが、宮上以外の4常会では現役世代と高齢世代の関係が大きく変わることがわかる。
- ・宮上以外の4常会ではこの10年で現役世代・高齢世代の比率が2.5倍～15.5倍と急激に上昇するため、これまでの支える、支えられる関係の負担感が大幅に変わっていく可能性がある。
- ・一方で、「定期的に訪れる親族など」を現役世代の担い手と同等に扱った場合、今後10年での負担は居住者のみで担うケースと比較して改善することもわかる。特に嵯峨常会、栗見坂常会では外部の担い手をどう確保していくかが大きな課題といえる。

■課題認識

- ・現在でもすでに農地や墓地の管理、役の負担が話題になっている常会（東内、嵯峨、栗見坂）もあり、10年後はさらに負担が広がることから役のあり方や管理地域の見直しも検討する必要がある。
- ・10年後は多くの常会で消防団員の確保が課題とされるなど、地域の防災を担う消防団の機能低下が予想される。
- ・空き家の増加、独居世帯の増加も課題して指摘され、独居世帯の生活サポートも大きな課題となってくることが予想される。
- ・農地や用水、墓地の管理は現在でも課題となっていることから10年後はかなり大きな負担になることが予想される。誰が管理するか、どこを管理するかも含めて検討する必要がある。
- ・免許返納者の増加も予想されることから、病院や買い物など、生活を維持する上で必要な移動も課題となる。
- ・場所によっては冬季の積雪や凍結により、除雪作業が必要となるが、除雪の担い手の確保も大きな課題となる。

表 現在と10年度の各常会の変化（定量的把握）

	宮上		共栄		東内		嵯峨		栗見坂	
	現在	10年後	現在	10年後	現在	10年後	現在	10年後	現在	10年後
高齢者	20	21	16	27	25	41	9	19	5	14
現役世代	23	28	27	19	38	21	25	16	11	2
若年層	6	1	10	3	0	0	4	2	0	0
定期的に訪れる親族など	9	8	3	3	5	9	10	11	0	0
高齢者／現役 ^{※1}	0.87	0.75	0.59	1.42	0.66	1.95	0.36	1.19	0.45	7.00
今後10年での負担増加 ^{※2}	0.86		2.41		2.95		3.31		15.56	
高齢者／現役（定期的に訪れる親族含）	0.63	0.58	0.53	1.23	0.58	1.37	0.26	0.70	0.45	7.00
今後10年での負担増加	0.92		2.32		2.36		2.69		15.56	

年齢階層区分 若年層：18歳未満、現役世代：18～74歳、高齢者：75歳以上

※1：現役世代1人あたりが支える必要のある高齢者数

※2：現在を基準として10年後に支える必要のある高齢者数の増加割合

	現在	10 年後
宮上		・仕事がないので若者が戻ってこない ・高齢化で消防団が機能しなくなる ・消防、祭りの担い手が少なくなる ・残った者の負担増 ・集落排水の維持ができなくなる ・佐那河内に働きに来る人は、村外の人が多い ・(消防団員が)徳島市内に働きに出ているので、火事があつたらすぐに駆けつけられるのか？
共栄		・太尾用水の管理 ・草刈り ・消防団員の不足 ・共栄常会 ・祭り ・除雪の担い手
東内	・独身が多い ・役の当たる人に偏りがある ・川のカヤ問題、刈れない ・祭りの担い手がない	・消防の担い手がない ・子どもがない ・通常の草刈りができない ・75 歳以上の世帯増加がすごい ・耕作放棄地が増える ・空き家、独居が増える
嵯峨	・農地の管理 ・常会役員の選任（担い手がない） ・鳥獣の被害 ・嵯峨川の景観保全 ・共同墓地の管理	・買い物 ・地域の農業 ・ゲートボール場の整備 ・集落自体の維持 ・常会役員の選出ができない ・祭りの後 ・ゴミ捨て ・活動を共同化
栗見坂	・嵯峨すだち農家の後継者 →どれだけ続けるか？ ・70～80 歳が主力 ・鳥獣害（鹿） ・六社神社の管理（行政別）	・医者、病院 ・75 歳以上の世帯をみる人がいない ・場所が離れている ・現在は免許があるので買い物に行けるが、これから先は？ ・現在の 60～70 歳の人年を取ったら見る人がいなくなる ・消防団団員の年数が長くなっている ・新入団員 ・独居老人が増える→役所前の集合住宅で管理か？

集落点検の結果

1. 宮上の現在
2. 宮上の 10 年後
3. 共栄の現在
4. 共栄の 10 年後
5. 東内の現在
6. 東内の 10 年後
7. 嵯峨の現在
8. 嵯峨の 10 年後
9. 栗見坂（その 1）の現在
10. 栗見坂（その 1）の 10 年後
11. 栗見坂（その 2）の現在
12. 栗見坂（その 2）の 10 年後

先よみワークショップ 02 まとめ

■目的

地域の“見える化”された10年後の課題に対して、この10年の間でやるべきこと、しておくべきことを整理する。すべてやる、という前提で準備すると難しいため、とにかく沢山アイデアを出した上で、次回以降で優先順位を決め、具体的な行動方策を検討する。



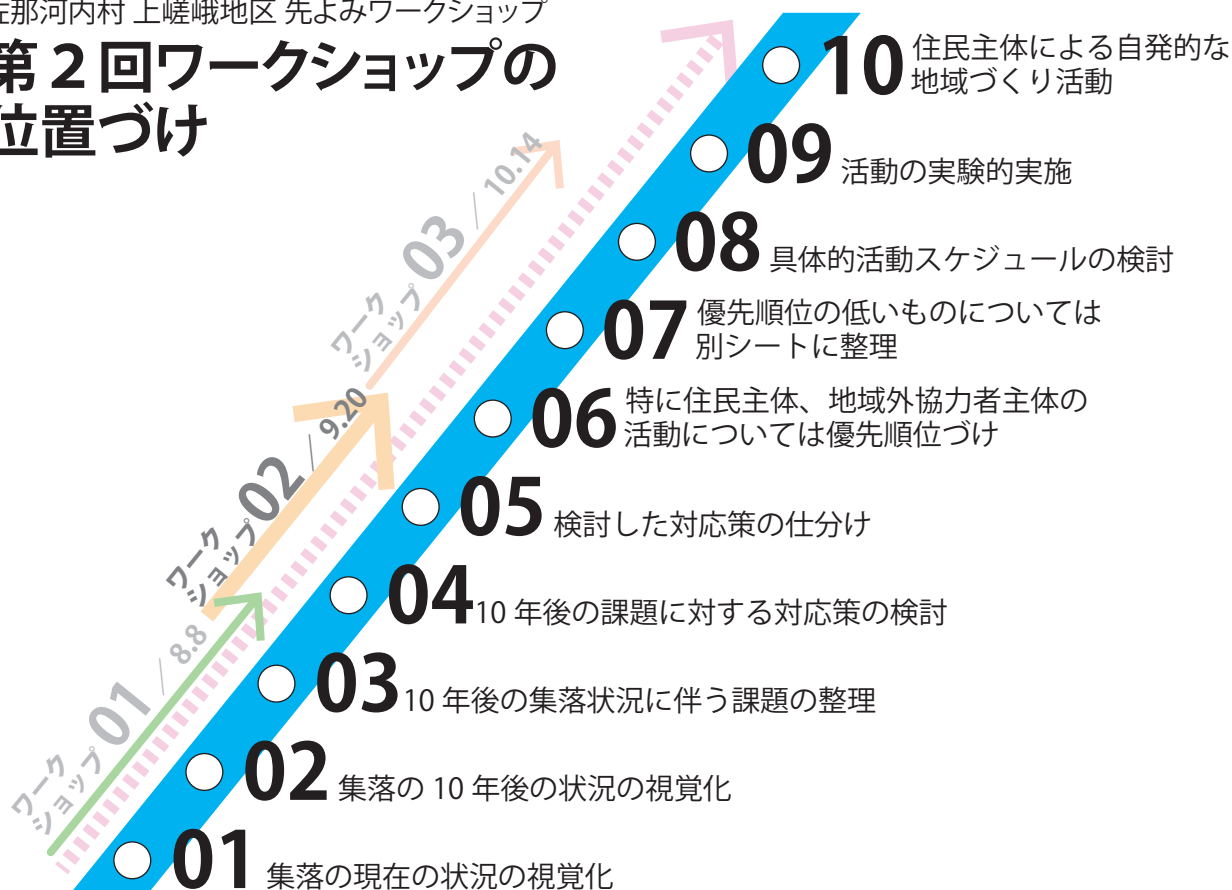
■進め方

1. 前回ワークショップの成果を振り返る
 - ・各地区で現在抱えている課題の確認。
 - ・10年後の世代構成の確認と課題の確認。
2. 現在の課題、10年後の課題に対してやるべきこと
 - ・課題に対してできることをたくさん挙げる。
 - ・話し合いの中で、新たに想定される課題が出た場合は加える。
3. 課題へ対応するために連携が必要な主体を考える
 - ・自分たちでできること。
 - ・自分たちだけではできないこと。
 - ・行政にお願いしなくてはならないことをそれぞれ分類する。
4. 発表は時間切れのためなし



佐那河内村 上嵯峨地区 先よみワークショップ

第2回ワークショップの位置づけ



複数の常会で共通する課題と対応策

住民でできること

01

課題

若者不足
少子化問題

若者を受け入れる環境をつくる

村にいる若い人が残りたいと思える村にする.. 宮上

移住者を探す

移住者のための宅地を探す..... 嵯峨

02

課題

消防団問題

若者の団員を確保する..... 宮上

OBに手伝ってもらおう..... 東内

消防団で楽しみがあれば、みんな入るのでは

長いのは仕方がない、OBが出ていく..... 栗見坂

03

課題

祭りを絶やさないためには

子どもたちに良さを伝える。祭りに参加する.. 共栄

祭りのブランド化..... 東内

外部との連携でできること／連携先 行政にお願いすること

職業体験を増やす
 若者が集まるイベントの開催
 若い人が生活する家を建てる
 コンサート、音楽フェスなど、村に来る
 きっかけづくり
 地元の若い人から
 外の若い人に向けてPR..... 宮上

暮らしていくための仕事づくり
 出ていった人が帰ってきたいと思う地域
 づくり
 各家庭から出ていった子どもを呼び戻す
 自然を生かしたテーマパーク..... 東内

佐那河内村内にどんな仕事があるか周知する
 家も大事。住む場所や建てる場所を作る
 新築補助金等の役立つ情報のPR
 サテライトオフィスをつくる。企業誘致する
 世代を超えて交流する場所。キャンプ場とか
 地元の若い人から外の若い人に向けてPR
 役場ももっと現場に出てきて、村民と交流
 する
 働く場所をつくる..... 宮上

外に人を出さないための交通手段の確保
 住む所の確保
 移住者の推進..... 東内

移住者のため宅地の整備
 遊休地を探して家を建てる
 若い人に入ってきてもらう..... 嵯峨

プロが最前線にいてほしい..... 宮上

最悪の事態を踏まえて対策をとる。
 安全策が大事
 常備消防を設ける..... 宮上

初期消火に対応できる団づくり。
 活動内容の見直し。資機材の充実..... 共栄

保険には加入してもらう（村）..... 東内

若者を呼び込む..... 宮上

記録に残す..... 共栄

デジタル化保存／映像制作会社..... 共栄

村内放送の自由化
 地域の祭りごとの放送など..... 東内

複数の常会で共通する課題と対応策

住民でできること

04

課題
高齢者の
移動・買い物

移動支援..... 嵯峨

05

課題
高齢者の見守り

高齢者の見守り..... 嵯峨

近隣住民が旗を出すなどして生存確認... 栗見坂

06

課題
常会の運営
担い手不足について

開催方法と場所。住民の意思決定..... 共栄

常会の統合..... 嵯峨

07

課題
地域の農業に
ついて

農業振興..... 宮上

08

課題
鳥獣害被害

柵、わなの設置..... 嵯峨

09

課題
草刈り

協働での対応..... 東内

外部との連携でできること／連携先 行政にお願いすること

買い物難民（移動販売の利用）
／生協、とくし丸e t c... 嵯峨

（移動販売の利用）／とくし丸..... 栗見坂

高齢者の見守り／社協、民生委員..... 嵯峨

1週間に1回くらい定期的に生存確認
を頼む／とくし丸、郵便..... 栗見坂

革新技術の活用。スマホ利用促進..... 共栄

農業振興..... 宮上

農業振興
役場の人も農業の経験や知識が必要... 宮上

スダチを年上の人しか使っていない
イメージを変えることで、需要増
につなげ価格を上げる..... 栗見坂

サルの捕獲..... 嵯峨

常会固有の課題と対応策

住民でできること

宮上	課題	佐那河内に働きに来る人は、村外の人が多い	
共栄	課題	除雪の担い手	
		太尾用水の管理	
東内	課題	地域の高齢化	地元で楽しめる「場」作り
		空き家の増加	
		耕作放棄地の管理	協働での対応
		独身が多い	協働での対応
嵯峨	課題	共同墓地の管理	常会の統合
		道路整備	
		嵯峨川の景観保全	
		農地の管理	
		安全な地域づくり	自主防災組織の強化 常会の人数を増やす
栗見坂	課題	六社神社の管理	現在 5 世帯で管理
		独居老人が増える	
		地域医療	

外部との連携でできること／連携先

地元の人優先で採用する

行政にお願いすること

地元の人優先で採用する

温暖化。凍結防止剤

農業以外での利用。水力発電。自家消費

医療体制の確保・道路の改良

出ていった人が帰ってきたいと思う地域づくり

(村)外に人を出さないための
交通手段の確保

外部からのボランティアを募る
(ボランティアへ) 食事の提供

共同墓地の管理／集落の元住民

待避所をつくる

河畔林の伐採

優良農地に対して公的資金投入
(区画整理、道路整備)
移住者の就労支援(農)
嵯峨天一神社周辺の基盤整備

災害時の避難場所
地域の避難所の開設／消防団

条件不利地住宅の人を平地に
防災備品の整備

役所前の集合住宅で管理

送迎サービスしてくれている

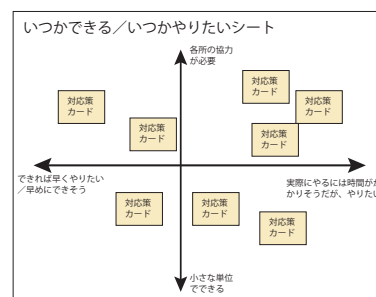
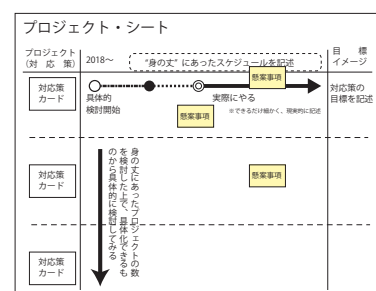
先よみワークショップ 03 まとめ

■目的

第2回ワークショップで出された対応策について、それぞれの優先順位を決め、優先順位の高いものから具体的にどのように進めていくかを考える。また、優先順位の低いものについては捨てるのではなく、“いつかできる／いつかやりたいシート”にリストとして記録する。

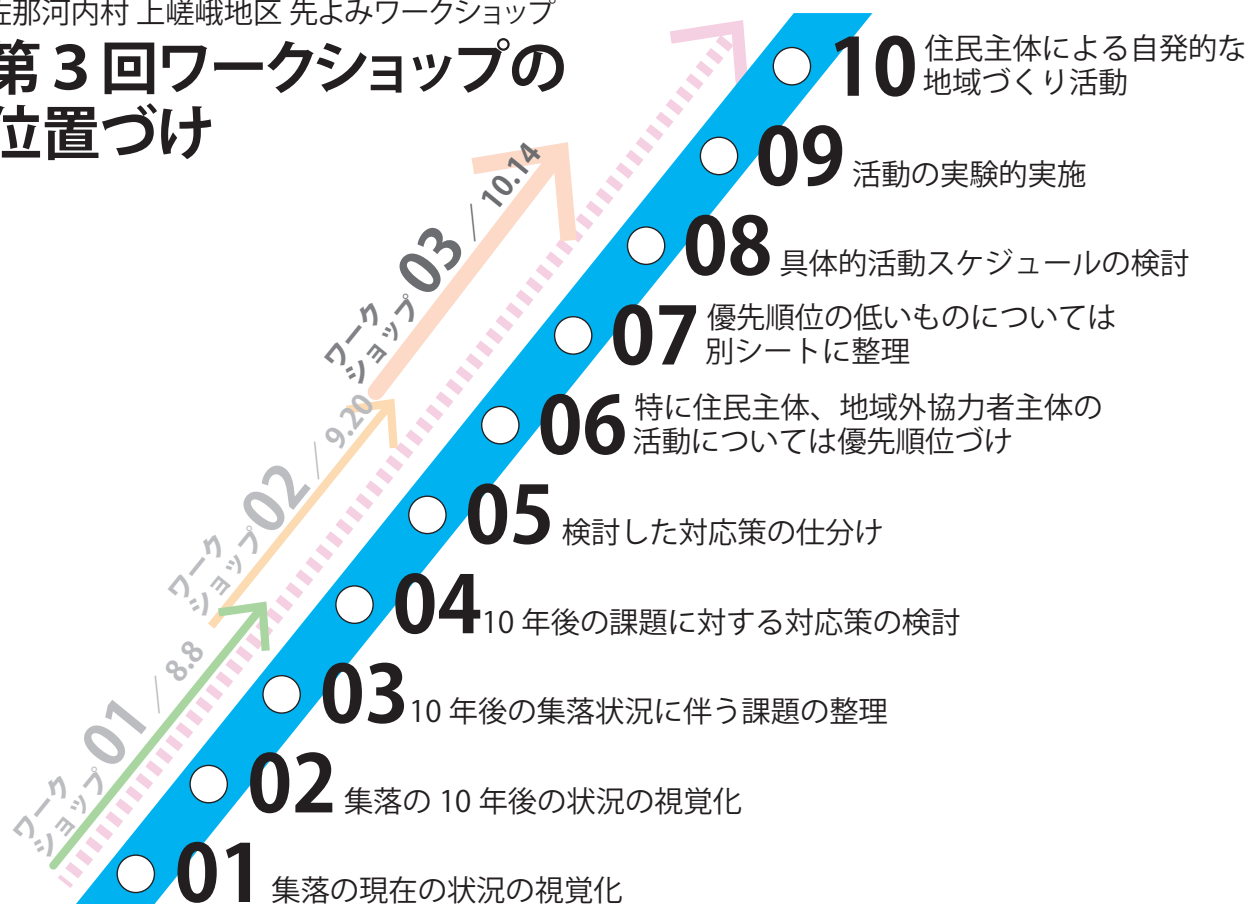
■進め方

1. 前回ワークショップの成果を振り返る
 - ・各地区で出た課題と対応策の確認。
2. 地域での活動の検討
 - ・集落個別の課題対応策について、各集落の中で優先順位の高いものを選ぶ。
 - ・低いものについては“いつかできる／いつかやりたいシート”に位置づける。
3. 発表
 - ・時間がなく、割愛した。



佐那河内村 上嵯峨地区 先よみワークショップ

第3回ワークショップの位置づけ



プロジェクト・シート

各集落で出たアイデアの中でも、スタートしやすい取り組みをいくつか選択し、選択したものについては取りまとめた。

プロジェクト（対応策）

宮上

課題

若者不足・少子高齢化

01

外の若い人に向けてPR

親戚や知り合いに地道に PR
SNS で行政・住民ともに発信する



嵯峨（宮上）

02

若者が集まる
イベントの開催

キャンプする



川遊び



たけのこ・栗拾い
イベント

03

職業・生活体験を
増やす

日帰り・短期の
ホームステイ



みかん・すだち採りの
職業体験

共栄

課題

祭りを絶やさないためには

01

子どもたちに
良さを伝える 祭りに参加

子孫を 11/3 の祭り
へ連れて行く

祭り
カリ

02

デジタル化保存

写真

デジ
（行政）

課題

常会の運営担い手不足

03

開催方法と
場所住民の意思決定

今回の点検に
ついて報告する



意見集約
（開催方法・場所）



「プロジェクト・シート」として、具体的な進め方を示した。各集落および共通で取り組めるものについて

			目標／イメージ
専用 PR サイト作成 村の HP を分かりやすく整理する			認知度 UP 多くの人が知る状態
焚き火イベント みかん・すだち採り体験 収穫してすぐ食べる 桜を見ながら 山菜採りイベント			リピーターが現れる リピーターが生活体験 するようになる
明治大学以外にもファーム ステイの大学を増やす、 呼びかける ウォーキング 観光ガイド付き			移住
2024	2025	2026	
のことを知る キュラムの実施 祭り文化の継承			継承のコンテンツ の完成
タル保存の開始 補助金) 革新技术の導入 に向けて利用 スキルの向上 技術の取り入れ			ICT・対面のハイブリッド

プロジェクト・シート

各集落で出たアイデアの中でも、スタートしやすい取り組みをいくつか選択し、選択したものについて取りまとめた。

プロジェクト（対応策）

東内

課題

空き家の増加

出て行った人が帰って
きたいと思う地域づくり

01

第1段階

常会で東内集落の現状と
近い将来の変貌を認識して
もらう

東内集落の5年後、
10年後の集落状況の確認

▶先よみワークショップ
の資料により説明

第2段階

東内常会における横の
繋がり復活

東内常会の現在の
構成員の確認

▶村外で仕事をしてい
たりしていると隣の
家の事はわからない

村外に出ている各
家庭の人員の確認

▶県外や村外で生活
をしているが、
協働作業に携われ
るか、何か協力願
えるか確認

地元で楽しめる場
づくり

▶やりたいイベントなど
について検討

▶常会での意見集約

課題

消防団問題

OBに手伝ってもらう

02

第5分団との話し合い

▶第5分団との話し合いを
行う

第5分団のフォロー
を行う組織の検討

▶地域防災活動として
足りない部分をカバー
する取り組みの検討

については「プロジェクト・シート」として、具体的な進め方を示した。各集落および共通で取り組

目標／イメージ

第3段階

第4段階

東内常会内の在住者
顔合わせ会

- ▶ 東内常会で顔は知っていても、話をしたことのない人がいないようにする

新旧世代による活動の模索

- ▶ 集落内の仲間意識の再構築
あいさつの励行
高齢者や幼児の見守り

若い世代による活動組織
の設立

- ▶ 村内在住、県外在住問わず東内常会で若い世代による活動組織をつくる

- ▶ 協働活動や祭りなどの足りない部分への参画推進

- ▶ 集落内に問題が起こったときの解決

旧世代にできない活動の
フォロー

協働活動への参加

- ▶ 河川清掃・道路愛護
祭り・村の運動会
スダチの収穫の手伝いなど

- ▶ 県外や村外で生活をしている人の意見を聞く

イベントや懇親会の開催

- ▶ 東内集落在住者間の懇親を深める

- ▶ 県外や村外で生活をしている人との交流を深める

地域防災組織の結成

- ▶ 東内常会による地域防災組織の結成
メンバーの選抜

嵯峨地区における地域防災
組織の結成

- ▶ 上・中・下嵯峨に地域防災組織の結成を呼びかける

新旧世代による地域の
活性化

- ▶ 県外、村外在住の家族が両親の事を心配せずに、安心して生活できる集落の構築

- ▶ 県外、村外在住の家族が帰ってくるのが楽しみになる集落の構築

- ▶ 世代間の垣根を超えたイベントや懇親会、楽しみの場の創出

第5分団OB会の結成

- ▶ 上・中・下嵯峨により人員を選抜し、時間的、人力的な不足点をカバーする組織の結成

プロジェクト・シート

各集落で出たアイデアの中でも、スタートしやすい取り組みをいくつか選択し、選択したものに組めるものについて取りまとめた。

プロジェクト（対応策）

嵯峨

課題

若者不足・少子化問題
安全な地域づくり

移住者を探す
移住者のための宅地を探す
常会の人数を増やす

01

R 4 年

R 5

空き家を探して
住める家を増やす

貸す人・売る人を探す

宅地に適した
土地を探す

村からの予算獲得



課題

安全な地域づくり

自主防災組織の強化
地域の避難所の開設
災害時の避難場所

02

備蓄倉庫の設置

各戸の情報シート
備蓄倉庫・防災備品
の再確認
(備品倉庫に常備)

防災備品の整備



炊き出し体験
年中行事に→お祭り ←移住希望の人

消防 03

消防団の情報発信

非常招集年 3 回

栗見坂

課題

高齢者の見守り

近隣住民が旗を
出すなどして生存確認

01

10～12 月 常会話し合い

旗の場所
→道路ぶちから見えるところ

場所：ポスト

最初は 1 色で…

旗はずっと出しっぱなし

最初はタオルや手ぬぐいを
材料に旗をつくる

汚れ具合

旗を立てる時間

懸念点
防犯的に OK か？



新聞を取りに行く
→旗を立てる

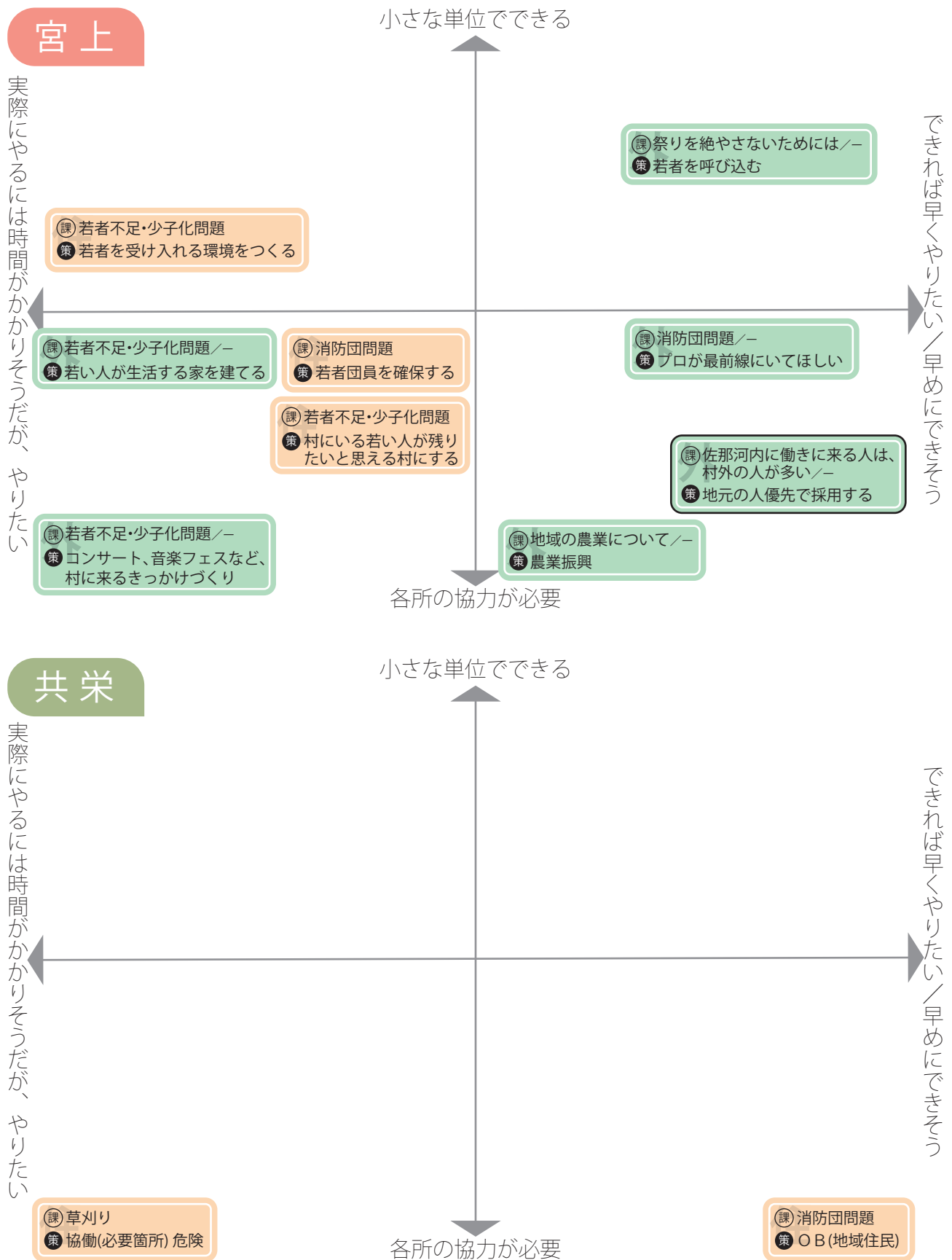
どれだけ楽にするか

については「プロジェクト・シート」として、具体的な進め方を示した。各集落および共通で取り

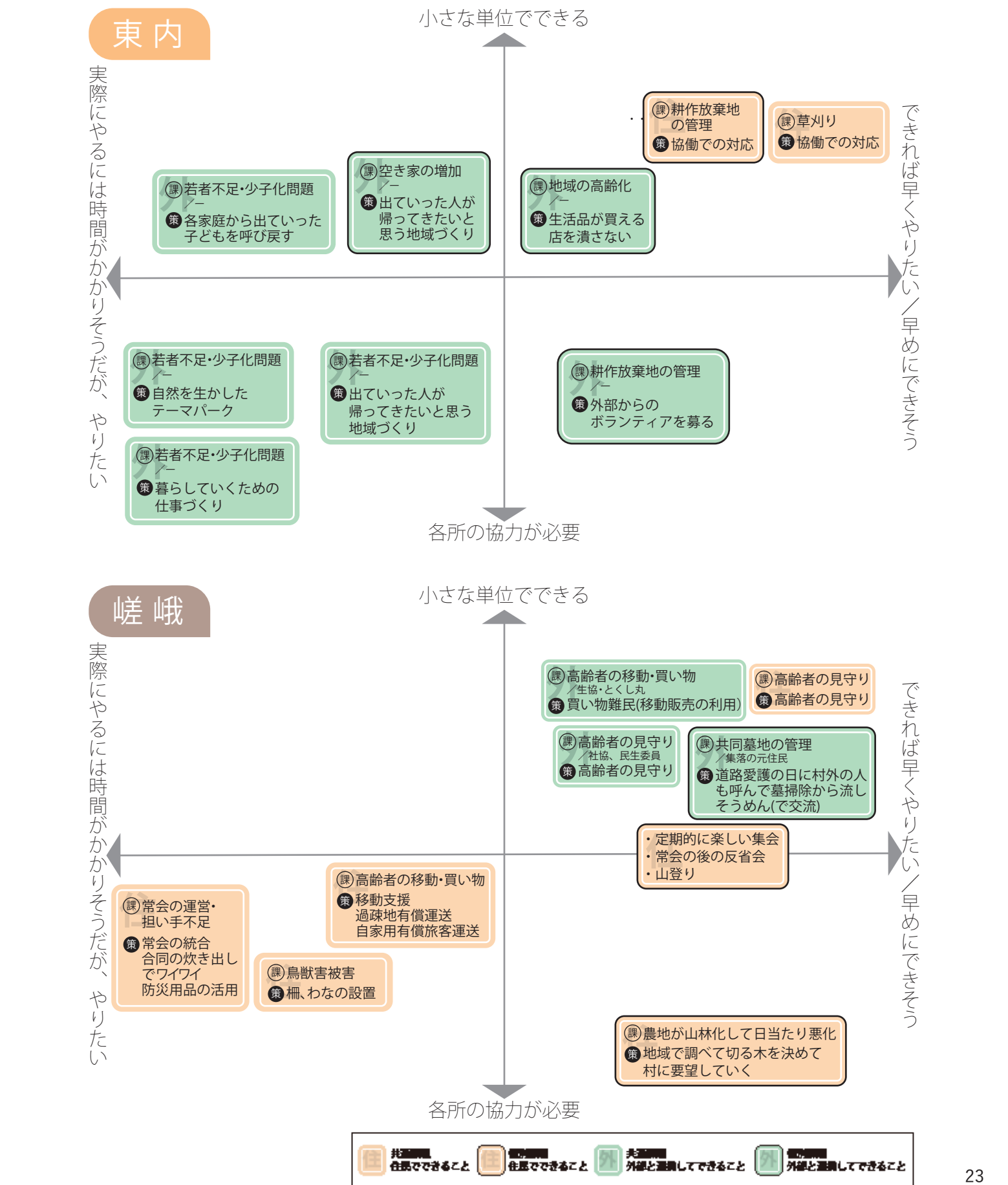
目標／イメージ	
年 R 6 年 ヤマツ・藤本さん 継続を！ 空き家の改修補強 常会の人数を増やす 移住者へのケア [強化] 移住者探し 宅地の造成 生改センターの耐震改修 →避難所に！ 自主的な避難所の開設 重要 宝蔵寺→避難所 を呼んで楽しく	子どもがたくさんいる 安全・安心な嵯峨 消防団員の確保
1～12 月 実験 旗の色分け 確認者 住民プラスα 緊急通報装置と 併せて利用 広報活動 依頼先 郵便・とくし丸・コープ にどう頼むか？ 洗い出し 参加者の増減 3 か月に 1 回 成果報告	旗立て活動 みんなで確認 ゆくゆくは 他の地域でも…

いつかできる／いつかやりたいシート

優先順位が「プロジェクト・シート」掲載の取り組みほどにはならないものの、ワークショップシート」として取りまとめた。



でだされたアイデアで今後の取り組みをする際に参考になるため、「いつかできる／いつかやりたい



いつかできる／いつかやりたいシート

